

# ドナネマブ薬価年間308万円

## 厚労省 患者数予測2.6万人

厚生労働省は11月20日、日本イーライリリーの認知症薬ドナネマブ（銘柄名：ケサンラ）の薬価を収載。350ミリグラムの1瓶あたり6万6948円で、1年あたり約308万円と、同約298万円のレカネマブより高価となった。10年後のピーク時の投与患者数は2・6万人、販売金額は79・6億円と予測している。

同日より保険適用となった。高額療養費制度が適用されることから、自己負担には上限が設けられる。

ドナネマブは、エーザイのレカネマブ（銘柄名：レケンビ）と同様、アルツハイマー病による軽度認知障害・軽度認知症の進行を抑えるもの。いずれも脳内アミロイドβを減少させるものだが、作用機序は異なる。また、

■ドナネマブとレカネマブの違い

	ドナネマブ (ケサンラ)	レカネマブ (レケンビ)
効能	軽度認知症の進行抑制	
作用	脳内アミロイドβプラークを減少させる	脳内アミロイドβを減少させる
投薬頻度	4週に1回	2週に1回
投与期間	原則18ヵ月（アミロイドβプラークの除去が見られる場合12ヵ月で投与終了）	原則18ヵ月
1年あたり費用	約308万円	約298万円
薬事承認	2024年9月24日	2023年9月25日

（厚生労働省の資料をもとに編集部作成）

レカネマブは2週に1回点滴注射するのに対し、ドナネマブは4週間隔となる。投与にあたっては、かかりつけ医などの診

療で軽度認知症が疑われる患者へ、MRIや神経心理検査、アミロイドPET／脳脊髄液検査を実施。投与は認知症疾患医療センターなどの医療機関が行う。

レカネマブと同様に、使用における指針を示した「最適使用推進ガイドライン」を設定する。患者の投与要件や、医療機関の要件を定める。

薬価収載にあたり11月13日に行われた中央

社会保険医療協議会では、薬価などについておおむね了承を得た。ガイドラインについては、2種の認知症薬の使用分けや途中での切り替えについて質問が挙がった。厚労省の担当課は「基本的に途中で切り替えることは想定していない」として、使い分けの安全性や有効性が明らかになっていないことを考慮しつつ研究事業を進めていくと回答した。